







小林

準備成る 小林美登利

ヨルダン河畔の靈驗と荒野の試練とは基督教に取つて最も重大な事件であつて此處に基督教の起源あり特徴あり結論あり其が此世に齎す使命の準備は既に此時に於て決したものを見る事が出来ます。之はホンの僅かな記事になつて残されて居るものであります然しその内容から申しますが、イスラエル民族が過去二千年間基督教の出現に至る迄發み來つた宗教生활の結論とも見られ又その精華とも見る事が出来るので彼等の史上燐爛として輝く幾多の豫言者は只基督教の爲に準備をなしたと云つてもよいのです。豫言者を出して來たイスラエル民族が基督教以後にはバツツリ其跡を絶つて二千年後の今日に至るも只一人の豫言者をすら出して居られないのです。故にイスラエル民族が宗教生命と云ふ事は全く基督教その者に於て完成されたと云つてもよいのです等が世界に對する使命は只基督教を出さん爲であつたと云つても過言ではないと思ひます。基督教が子弟等に向つて「多くの豫言者や王等」を見聞せんとするものも今は汝等が見聞きつゝある所のものである」と云つて居りますが敬虔なイスラエル人の探ね求めたものは山城柳吉氏から赤嶺新野榮氏へ宛の實に基督教その者であつたのであります。此基督教が基督教としての靈的誕生箇處があるとして内間氏から書き送られたのをかいづんで紹介すれば左神の子の自覺にあり而して荒野の試験は「ダヤ教より基督教の生れた生（前略）郷里に於ける伯國觀は誠に淺みの苦しみこ見ててもよいのであります。基督教は荒野の煩悶に依て全く思想的に信仰的にダヤ教的の舊き衣被を脱し狹隘なる國民的外殻を破つて國民の仰ひで以て救世主となすべ無之候何れも不滿不平後悔の聲のみ凡ての準備を完全したと云ふ事が出來ます。基督教が後來色々な誘惑に居るからであります。或時の如きも受けなかつたのは既に荒野に於て彼の受くべき最大の誘惑に打勝つて居るからであります。或時の如きも基督教の名聲餘りに嘆々として其爲す事云ふ事が到底人爲の業とは思はれぬたので人々は之をカツギ上げて王となさんとしたと云ふ記事が見えて居りますが斯る事は基督が荒野の試練に於てトウの背に解決して居たと付けられた時の如きも意地悪き上帝が「喧殿を毀ちて之を三日間に建てる者よ自己を救ひ十字架を信せん」と嘲弄して居りますが之より下りよ」と云ひ又祭司長學者等も同じく「人を救ひて自己を救ひ能む乎イスラエルの王キリストは今十字架より下るべし然ばに我等見て之に付けられた時の如きも意地悪き上帝が「喧殿を毀ちて之を三日間に建てる者よ自己を救ひ十字架を信せん」と嘲弄して居りますが之の手段を只神の忠告に據らんと決した以上は最早何物ぞ雖も彼を誘惑した基督が此世に對する使命遂行の爲に準備を與へたものは荒野の試練に於て解決して居る所で何等彼の心を動かすに足るべきものがなかりました。眞に基督教の全生の歴程を眞に見渡して見れば十字架の死なりました。既に此時に於て決したものと見ねばなりません。

### 一時歸國した 山城氏からの通信

昨年十月一時船國したジユキア線の山城柳吉氏から赤嶺新野榮氏へ宛の通信は在伯同胞の一讀し置く必要のある事で山城柳吉氏から書き送られたのをかいづんで紹介すれば左

人夫募集

# 新珈琲園

一、ソコカバナ線 初年度アルゴドン、プランタボンタデ、次年度三列のアロイスク横從、ミリヨ、豆各二列、三年度から以後は受負者御随意  
初年度から六ヶ年間珈琲實は受負者全收入、一万本に對しアルケルの間作地とバスト一アルケルなどを與ふ。  
家及山切は受負者自費  
御希望者に限り一農年度の食料を貯します最も健康地で將來發展地  
でエスタンソンに近い地點か何より御便利です兒童の學校も町に在りす  
ます恰度半數は契約済となりましたから御希望者は一日も早く御申  
込を願度ます

茲に改めて御通知申ます  
サント・アナスタシオ驛前  
維貨仲買  
並に旅館  
申込所 原田商店内  
KEIDA HAN  
Caixa Post

## 諸肥料

特に馬鈴薯作に最有効の肥料を調製いたします。そして該肥料は既に日本人農業者諸君の御試用を受け大効果を挙げ得

N. Nakamura

Caixa Postal, 154  
A Lins \*\*\* Noroeste

改良新式  
プランタ機製作所

中村仁太郎

**珈琲地帶處女林賣却**

セ ル ボ ン 耕 地 開 耕 事 務 所  
ノ ロ エ ス テ 線 ヘンナ 駅  
郵 函 百 一 十 四 番

# **ADUBOS FORTUNA**

**J. B. D U A R I E**

São Paulo

São Paulo

な  
や  
み  
黒板  
幕(三)

「早よう」と妹の聲が聞へた。  
「兄さん、カフェーが出来ました。」「どうか。今いくよ。」「自分の體氣でほんのりと。ぬくま  
近くのボストに手紙を投函して家に歸つた。いつになくゆつたりし  
た體を寝具につづんでねた。いつも  
氣になる馬の鳴き聲や、夜鳥の淋し  
「おいい、とも。」

「その御免なさい。」と妹の好子がはいつて來た。  
「この御手紙が」と出した手紙を受け取つた慎一は、見覺のない手蹠にかけたつて、章大なる言仰を覺ゆにひたつて、

居る自身を見出す事が出来た。  
ある生を送つて居る、と今の自分をありありと覺つた。憎一は起き直つてちつと祈らすには居られなか  
不審を抱きつゝ封を切つた。  
「失禮しました」と出て行つた妹に返事もせず、文面に目をそいだが憤りの眉はかすかに動いた。讀んで行く内に憎一の手はふるへ、言ふに言

いつとはなくねむつてしまつた慎はれの一種落付かぬ感じに、心のさ  
一は、郵便配達夫の聲に目をさしまさきめくのを制することが出来なかつ  
た。『何時だらう』日は硝子窓をどう  
して自分の體にあたつて居る机の  
カミソリから出しながら、次第に  
平らに御用御来遊下されし節は失禮のみ  
御用御来遊下されし節は失禮のみ

つて、心地よかったです。白い煙草の煙が、フワリと上つて天井をはいまわつて消える。遠くの牧場から、かすかな牛追の音が聞こえます。

二本目の煙草に火をつける時。カ  
奴隸の娘 (三十五)  
ベルナルドギマラエス作  
杉山帆譯  
星雲堂  
「その通り、一萬圓也そして今日只  
強く云つた。  
さマルチニヨは眼を見張つて力ちぢ  
夕の乾漆舟はじへ月・小生の御  
望御多忙中まだ勝手には候へ  
二本目の煙草に火をつける時。カ

「承知しました。」  
マルチニヨは答へた。  
「僕は得心してゐるよマルチニヨ  
君。」マルチニヨは低声で彼を傍へ連  
れて云つた。「五千圓の財産、さ  
して――」

今だ。」「  
「だがアル・パロ君、もう僕は女奴隸めのうすいの主人に僕の言質があるんだ、此目  
的の爲に歩を進めちやつたんだ、そ

云ふ事が君をして、君に對し何等惡い事をした事もない、一人の不幸な女に向つて、かう云ふ遣り方に出て、しめる云ふ主要原因なんだ。それも君の罰金である、美よく承印してしまつたと云ひ給へ、でなければやあ何とかいゝ加減の言譯をし給へ」と。

「いか。」  
「倍さね……！」  
「萬圓！」

総合せの上御内遊被下度候  
未等ながら家内及妹もよろしく申  
述候 敬白  
と云ふ簡単な早苗の兄よりの手紙で  
あつた。読み終つた慎一は全身のけ  
だるさを感じ大きいためいきつい  
た。早苗に對する戀の芽生は此の手  
紙で終りを告げるのはないだうか  
? 又しても心配は精神をいらつかせ  
る。遠い殖民地に行くの遠いと云  
ふ事に於て、早苗と會ふ事は少なく  
なるのだ。今の一早苗と遠くは  
なれて住む事が出来るだらうか。片  
戀にしろ、ちつと早苗を自分にひ  
つけて置き度い。然し自分に早苗を  
ひきつけるだけの力を持つて居るだ  
らうか。心の何處かで戀の終りをさ  
やいて居る。绝望の悲慘が自分に  
今押しよせて來て居るのだ。  
かいいがいしくエプロン姿で臺所に  
飾いてゐる妹の好子を見ても、今の  
自分の不甲斐なさを、しみじみ味ふ  
のであつた。何だ、突進すべき使命  
を神より得て、世に立つて來た男が  
一女性に心を奪はれて無駄な日を過  
して行は。その目的が善であつた  
ら外面の難關をさりぬく位は譯もな  
い。たゞ真剣に事に當り、もし失敗  
してもよいいる事がないではないか、  
ただ自分の心に秘めて置いて何にな  
たが此事件からうまく切抜けるに  
は僕はどうしたらいいだらう?」  
「いさ、君の想像力は抜け道には  
豊なんだ、そして頗る手際よく難關  
から切り抜け得る、何等かの方法を  
考へつくに違ひないんだ。」  
マルチニヨは暫く思案に耽つて  
床を見詰めて爪を噛んでゐた。しま  
いに頭を擡げて人差指を額へ當て、  
高く云つた。  
「わかつた! 女教師が再び妻をかく  
した、と云ふのはどうもうまくない

鳥渡者へてから云つた。貴君がそん  
なにとの女教師に肩をお入れになる  
からには、此上もようこんな取引で貴  
君を懐ますまい。實を云ふと此取引  
つては僕もつて嫌なんです。よろ  
しい承知しました。」  
「だが此事件からうまく切抜けるに  
は僕はどうしたらいいだらう?」  
「いさ、君の想像力は抜け道には  
豊なんだ、そして頗る手際よく難關  
から切り抜け得る、何等かの方法を  
考へつくに違ひないんだ。」  
マルチニヨは暫く思案に耽つて  
床を見詰めて爪を噛んでゐた。しま  
いに頭を擡げて人差指を額へ當て、  
高く云つた。

「わかつた! 女教師が再び妻をかく  
した、と云ふのはどうもうまくない

Cidade de São Paulo  
Guia Ilustrado do Brasil  
編者はラシモン、ショル所蔵ラシモン  
著者内蔵代ナマ、ワロ市内案内行会組織遊  
覧案内新規開業車輌時間の變更所名  
編集者内蔵代ノ人向利便のもの費用所名  
モント、ロト商店會

郵便局送金御通知の場合は其の種類に依  
る御記入被下度御願申上候  
必要項目  
○コンゴル番號、書留番號  
○差出人住所所姓名、日本文字  
○郵便物種類、受信人宛名  
○送金振出年月日  
尚ほ御送金後數日を経るも郵便の宛  
候と御認めの上通知書御請求被下度  
御願申上候

伯刺西爾時報社  
會計係

◆日本品各種◆食糧品◆農產物仲買及委託販賣  
◆**Casa Suyama**

野口喜平治  
（コンア街見付上角）  
市コソセレイロ、フルタード街一番

ルス、ソロカバー、ナショナルよりの電車は三九番、御乗車並御飲食、事前及海外興業日本本人各商店及シダーテアには最も御便利の場所に候。

JAPONEZ  
de Sarzedas, 23  
114 — S. Paulo  
市聖  
日本基督教會  
集會 日曜日午後八時  
歡迎

EGREJA  
Rua Conde  
Caixa, 1

**Toyoco Sasaki**  
Parteira Diplomada n.  
Japão em São Paulo  
— 09.07.02 —  
**公認 佐々木 こよ子 産婆**

セーラー、ペローベ買入度し委  
は本店にて御問合せ下さい  
力一ザ 東京

伯刺西爾時報取次所

香港トナカイ  
古謝將義  
15 de Setembro, 1907  
Santos, 2008, Central Tel.

石林洋服洗濯所  
電話ヤムラニ番武番四  
Rua dos Lavapés No. 236





大石内藏之助

半井桃水

**BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD.**  
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)  
Rua da Candelaria, No. 23  
Caixa Postal 380  
Rio de Janeiro

**◆預金用紙は御請求第一直に御送り可致御  
の點は御遠慮なく御問合せ被下度候  
◆預金通帳は書留郵便にて御送付可申上候間  
込の際最寄郵便局御指定相成候は御便宜  
之能**

▲鹿市より四十分に達し、四停車場を含む最上の土地七百五十アルケールスを提與します。

▲現在六十家族入植し、皆な「バタチーニヤ」、「唐黍」、「棉」、「米」、「小豆」、「玉葱」、「トマテ」、「果物類」を作り非常なる利益を擧げております。

▲聖市よりは極く近いので市場へ運搬費も頻る安價で済みます。

▲一區五アルケールスとして利子無しの年賦拂ひに致します。

▲百聞は一見に若かず、どうぞ一度御覽を願ます土地を御覽になり度い方は往復汽車賃を當方で引受けます。

▲汽車は一日十數回通ぶ至極便利な所であります。

▲詳細は左記へ御尋ね下されば總てを御説明申上げます。

**OSAKA SHOSEN KAISHA**

**乾**

**製造本舗**

**魚**

**大坂商船會社 涼船發着廣告**

**セナドル、ダンタス街五三番  
電話セントラール三〇五四番**

**サントス**

**郵函三二一八番**

**シカゴ丸**

**セナドル、ダンタス街五三番  
電話セントラール三〇五四番**

**北米バナマ經由サントス發七月廿五日  
横濱神戸行きリオ港着七月廿八日**

**サントス、リオ船客運賃三等三コント  
より横濱ヨリ**

**日本よりリオ港着七月廿九日  
サントス着七月卅一日**

**尙詳細は左記へ御問合せ候べ度候**

**S. Paulo :— Rua José Bonifácio, 17**

**Santos :— Rua 15 de Novembro, 167**

**Wilson Sons & Co. Ltd.**

**Rio de Janeiro :— Av. Rio Branco, 31**